

第2章 南部丘陵の持つ緑地の価値

南部丘陵の持つ緑地の価値を以下に整理する。

1 里地里山としての緑

大都市（政令指定都市）に多様な生き物が共生する「里地里山としての緑」の価値を有する。

- ・2010年11月、愛知県名古屋市で開催された国連地球生きもの会議（COP10）など生物多様性を巡る関心や気運が向上している中で、政令指定都市である大都市・堺市にも貴重な里地里山がある。
- ・南部丘陵には、里山、農空間、水路、ため池、集落等が一体として存在し、堺市レッドリストに掲載される多くの生きものが生息している。



カスミサンショウウオ(幼生)



オオタカ



カブトムシ



ヒメミクリ



明正川

2 市民生活を支える緑

環境学習や遊び、なりわいの場としての「市民の生活を支える緑」の価値を有する。

- ・約84万人の市民、さらには約15万人の南区の区民から非常に近い距離にあり、市民の生活を支える緑である。特に、堺自然ふれあいの森をはじめとした自然との関わりの場がある。
- ・その他ハーベストの丘、コスモス館、農業体験の場など関連する魅力資源が豊富に存在しており、農業振興の場、活力を産み出す場でもある。



小学校の環境学習
(堺自然ふれあいの森)



長峰のコスモス

3 原風景と未来の緑

文化を継承し、未来の可能性を探る「原風景と未来の緑」の価値を有する。

- ・古の昔から里地里山と人々の関わりの中で生まれてきた知恵や技を有し、その結果、美しい里地里山の風景が形成されてきた原風景の場である。
- ・さらに上神谷の歴史や文化、櫻井神社のこおどりといった伝統芸能などを有する地域である。
- ・また、これらの地域は、自然エネルギー、食、福祉など未来の緑地の活用について可能性を探る場ともなる。



法道寺

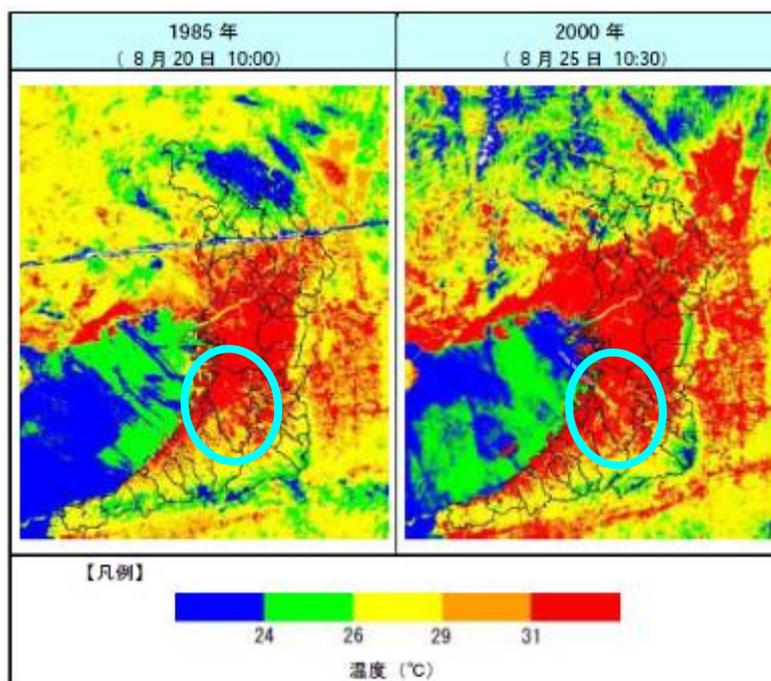


長峰ほ場整備地区（秋の長峰）

4 クールダムとしての緑

低炭素社会に貢献する「クールダムとしての緑」の価値を有する。

- ・市域面積の45%が緑地で、そのうち樹林・樹木地（二次林等）の68%が南部丘陵であるなど、南部丘陵は、市の緑地へ多大に寄与している。
- ・環境モデル都市「クールシティ堺」における重要な柱として、臨海部の共生の森等とともに「クールダム」として位置づけられており、CO₂吸収、ヒートアイランド緩和への効果が期待される。



資料：大阪府環境情報センター

図 1.2.1 ランドサットにより撮影された地表面温度の状況

5 源流の緑

石津川流域を軸に市域全体に発信する「源流の緑」の価値を有する。

- ・南部丘陵は、市の水系の背骨となる石津川の上流域（水源地）にある森であり、農業用水の水源やアユなどの生き物生息など流域としての価値を発揮している。お米は「上神谷米」として販売。
- ・さらに、石津川のネットワークを、水の道、風の道、生き物の道として、そして、流域を介した人のネットワークとして活用し、市域全体に緑や自然の価値を発信できる可能性がある。



百済川（石津川支流）での観察会（神石小）



上神谷米



観察会で発見されたアユ

図 1.2.2 南部丘陵・石津川水系・臨海部における環境活動の状況